

平成21年7月31日

各 位

上場会社名 フジ住宅株式会社
 代表者 代表取締役社長 宮脇 宣綱
 (コード番号 8860)
 問合せ先責任者 常務取締役 山田 正明
 (TEL 072-437-9010)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月1日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	19,360	364	200	112	3.50
今回発表予想(B)	22,700	1,137	1,100	642	20.06
増減額(B-A)	3,340	773	900	530	
増減率(%)	17.3	212.4	450.0	473.2	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	18,943	467	415	218	6.33

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	44,000	1,601	1,300	749	23.41
今回発表予想(B)	45,500	1,874	1,700	990	30.94
増減額(B-A)	1,500	273	400	241	
増減率(%)	3.4	17.1	30.8	32.2	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	45,300	2,584	2,388	1,361	40.78

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,024	124	16	5	0.16
今回発表予想(B)	19,367	888	903	523	16.34
増減額(B-A)	3,343	764	887	518	
増減率(%)	20.9	616.1	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	15,793	89	135	54	1.57

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	37,208	1,079	887	510	15.94
今回発表予想(B)	38,708	1,348	1,277	740	23.13
増減額(B-A)	1,500	269	390	230	
増減率(%)	4.0	24.9	44.0	45.1	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	38,869	1,868	1,813	1,192	35.72

修正の理由

1. 連結業績予想の修正の理由

当連結会計年度の業績は、当初、平成21年1月～3月の極めて厳しい経済状況が平成22年3月期を通じて全ての事業部門において継続することを前提に予想していました。

当第1四半期会計期間は自由設計の新築戸建の販売は予想どおりでしたが、世相を反映して低価格物件に人気が集まった結果、営業地域拡大の効果が表れた中古住宅「快造くん」や小規模建売住宅の販売が大きく伸長したこと、広告宣伝費を抑制したこと、支払利息負担が増加しなかったこと、個人投資家向け一棟売賃貸マンションを中心とする引渡しの前倒し等により、経常利益で期初予想の172百万円を468百万円上回る640百万円(期初予想比272.1%増)と、期初予想を大幅に上回る実績となりました。この経常利益の増加は、引渡しの前倒しによるものが161百万円、純粋な増加が307百万円となっております。

第2四半期累計期間の業績予想については、第1四半期会計期間好調な受注契約は第2四半期会計期間の売上高及び利益に反映されるものの、第2四半期会計期間の受注契約は夏場の需要低迷の季節要因と期初予想通り厳しい状況になることを考慮し、期初予想に比して、自由設計の戸建住宅、個人投資家向け一棟売賃貸マンション、土地有効活用事業の引渡しの前倒しにより、売上高で1,845百万円、営業利益で500百万円、経常利益で500百万円、当期純利益で291百万円、純粋な増加として売上高で1,495百万円、営業利益で274百万円、経常利益で400百万円、当期純利益で239百万円の増加を見込みました。

通期の業績予想は、この先も依然として不安定な経済状況が予想されることから、下半期は当初予想のまま、上半期に純粋に増加する売上高、営業利益、経常利益を当初の通期業績予想に加えたものに修正いたしました。なお、今後更に修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 個別業績予想の修正の理由

主として、1. の連結業績予想修正の理由と同様の理由によります。

(注)上記の業績予想数値は、現時点において当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上